

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜盲学校

学校番号	101
------	-----

自己評価

学校教育目標	障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身に付け、社会に貢献する児童生徒を育成する。
評価する領域・分野	生活相談部「生徒指導（教育相談）」「特別活動」「安全管理」
現状及びアンケートの結果分析等	「学校生活に関するアンケート」の結果および教育相談週間の個人面談より、今年度は「学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」という項目で児童生徒からの評価は改善されたが保護者からの評価は「わからない」という回答が多く評価が下がった。児童生徒とは教育相談や個人懇談などで、親身になった対応をして信頼関係を築いているが、保護者に対する、周知に力を入れることで、いじめゼロの実態に胸を張れるようにしていきたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣や望ましい生活態度の育成 2 人権教育における行動力の育成 3 予防的、必要に応じた個別の教育相談活動 4 児童・生徒会活動や部活動、MSリーダーズ活動など特別活動の充実 5 健康で安全・安心な生活についての意識の向上
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を含むいじめ対策委員会の設置 ・職員の人権感覚を磨き、思いやりあふれる学校実現のための人権教育推進委員会の設置
目標の達成に必要な具体的取組	1 日常生活指導 2 人権教育・道徳教育 3 教育相談（在籍者教育相談） 4 特別活動 5 安全指導
達成度の判断・判定基準あるいは指標	交通事故は起きていない。長期欠席も解消した。SCや外部機関と連絡が取れる環境を整備する。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・MSリーダーズによるあいさつ運動、聖マリア女学院高校と岐阜高校との交流活動、市役所、駅での点字ブロック啓発活動など行うことができた。感染対策の緩和に伴い従来に戻す部分と生徒数減少により縮小廃止する部分の見極めが引き続き重要。 ・各学部の年齢に応じた言葉遣い、右側通行等のマナーやルールに対する指導。スマートフォン使用、SNSに関わるルールやマナーの確認。 ・いじめ等の実態把握と「ひびきあいの日」の授業実践。 ・児童生徒理解、情報収集、問題行動への対応、教育相談週間の設定。 ・文化祭はステージ発表に加えフロア展示、クイックマッサージを開催。学部や部活での発表を行い、保護者の観覧も制限を解除した。短歌コンクールは例年通り開催。 ・不審者侵入・捜索体制のマニュアルの改訂を行った。 ・制服の規定の男子女子の表記を削除し新しく3タイプに変更。
評価の視点	評価
① 児童生徒の安全・安心の確保	A (B) C D
② いじめのない環境づくり	A (B) C D
③ 望ましい生活態度の育成	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○制服の新しい規定について着手することができた。 ○高等部普通科が他の高校との交流など校外での活動を再開することができた。	A (B) C D

<ul style="list-style-type: none"> ●今年度もいじめ事案がなかったことで、いじめ防止に関わる啓発活動を行うことがなかった。 ●生徒数減少に伴う様々な活動の内容の変更や長期サイクルを見越し、引き続き、規程集、生徒心得、生徒会、部活動規約等を見直す必要がある。 	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の減少を踏まえて様々な活動の目的を再考し、一人一人に寄り添いながら、長期サイクルも見越して内容を変更、改善を行う。 ・生徒会心得の改定、文化祭の運営など、生徒の自主性を育てる活動を計画実施する。

学校関係者評価 （令和5年6月22日、同年11月3日、令和6年1月31日実施）

意見・要望・評価等 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は安心した環境の中で、人間関係を築いていることが分かる。児童生徒数の減少からコミュニケーション能力を構築できるように、オンライン授業や交流活動を通して集団が確保されるよう工夫されている。
